

(1)評価基準に沿った評価	1人	5人	0人	0人	0人	4.2
(2)記述評価						
・順調に研究は進められていると思われる。 ・小児と成人との連続性を、一部でも意識した分析結果や考察が含まれると良い。 ・小児の喘息の長期経過を調査する方法としては、人口移動の少ない地域の喘息児の総体を対象としたスタディが必要で、この課題の方法ではどうしても対象にバイアスがかかる。この調査研究の結果は「中等症以上の乳児喘息の長期経過」と考えられる。 ・小児、成人とも今後の最終的成果の報告のほかに、中間的成果の正式な報告(publish)も期待したい。 ・成人ぜん息において、対象群の継続性の担保が重要である(今回のC群脱落の影響を考えると)。 ・重要なデータを蓄積しており、継続的に実施されることが望まれる。横断的な解析ではなく、長期縦断的なデータとしての視点からの解析を期待する。						